

研修実施報告書

研修名

伊豆市における障害者の就労を保障する地域社会づくり

法人名

特定非営利活動法人 えーる

開催年月日

令和7年12月20日

開催場所

中伊豆保健福祉センター：静岡県伊豆市八幡 33-1

研修の目的

法人定款「この法人は生活自立・社会自立を目指している障害者並びに重複障害者のために生活支援と就労支援をすること及び社会に対し障害者への理解を広めるとともに、共生・共育ができる社会の設立を目的とする。」の具現化を図ることを目的に開催する。

研修の内容

伊豆市内の企業や支援団体が連携し、当事者の働きたい思いを支援できる共生社会の地域づくりの必要性を当事者を含めて各層から登壇いただき、全員で考える機会を企画した。

具体的には、法人えーるの15周年記念公演として全国手をつなぐ育成会理事・政策研究センター委員長高木氏から全国の動向と理念的な考え方を教授いただき、パネルディスカッションとして「伊豆市の現状と課題、将来の展望」と題し、①当事者からの体験談と今後の改善点、②伊豆市手をつなぐ育成会会長より、親として、育成会団体として、就労等を通じて、行政支援、企業の受け入れ姿勢の課題等を、③静岡県知的障害者福祉協会の会長より、県下での福祉施設での取り組み、地域のセイフティーネットワークとしての役割等を、④企業と福祉をつなぐ組織として静岡県オールしずおかベストコミュニティの理事長から、受け入れ企業の現況と課題、組織としての取り組み等を、⑤伊豆市の市長として、行政トップとして、政治家として、思うところを述べていただいた。

その後、会場からの質問に対して意見を各位にのべていただいた。

研修会の反省会として、えーるの理事・監事・第三者委員と講師を交えパネリストと意見交換、懇親会を行い、各々明日からの自己や組織、伊豆市や地域社会の課題整理を行った。

研修の成果（今後地域に活かされる点を必ず記載）

講演会の後援団体は、伊豆市をはじめ商工会、当事者団体、支援団体等 9 団体。参加団体は行政、ライオンズクラブ、伊豆市議会等 16 団体が参加し地域福祉や障害者の置かれている立場や課題を参加者 120 名で共有できた。

市長、担当福祉部長、担当課長、相談機関、就労継続支援の同業者、支援団体が共通の認識を持ったことにより、行政施策や各種行政計画に反映されることが期待できると思われる。

えーるとして、NPO 法人の存在意義を再確認するとともに、直接支援として、就労継続支援や相談業務だけでなく、障害者を取り巻く環境の改善を図る活動、地域社会の人々の心のバリアフリーを進化させる活動をさらに展開していくことを意識させられた。

ちなみに、当法人の相談部門が令和 8 年 3 月 7 日「個別避難計画と合理的配慮～私にとっての避難計画」をテーマに福祉避難所になる中学校の体育館で、防災・危機管理に力を入れている伊豆市長をコーディネーターにお願いし、防災士を取得するべく学習している中学生、障害者団体で、避難所合宿体験訓練を実施している会長、計画作成の県アドバイザー等の登壇、基調講演としての、全国組織の又村氏等の研修会を企画して地域社会への障害者福祉の理解促進を継続的に図る取り組みに繋げることができてきた。

伊豆市で、このような規模で官民共同、行政と議会、福祉と商工業、国・県・伊豆市の支援団体の同席等は、伊豆市で 50 年近く障害者福祉に携わる私としても初めての試みであり。今後の各界の動向を注視していきたいと思います。

今回、農協をはじめ、農福連携の分野での登壇者がいなかったことが心残りであり、今後の取り組みの課題としていきたいと思います。

研修の参加者

【全体人数】 120 名

【当該法人の参加人数】 36 名（当事者 17 名、家族 7 名、職員 4 名、役員 8 名）

【当該法人以外の参加人数】 84 名（民生委員児童委員 12 名、市会議員 7 名、行政 6 名

保護司 2 名、社協 2 名、ライオンズクラブ 8 名、就労 B 型同業者 11 名

相談支援専門職 7 名、障害当事者 4 名、商工会 1 名、市民一般 11 名

所属不明 13 名)